

## 服用中の薬を中断する「休薬」

# 手術・麻酔への影響考え判断

九州大病院別府病院の治療・研究

### からだを 読み解く

▶ 6 ◀



麻酔科医員  
船津康孝

高血圧や糖尿病などの持病のために、日頃から薬を飲んでいる方は多いと思います。中には、経口避妊薬や健康のためのサプリメントを飲んでいる方もいらっしゃるでしょう。では、手術を受けるとき、これらの薬はどうしたらいいのでしょうか？

手術の際には「飲み続けた方がよい薬」と「時的にやめた方がよい薬」があります。安全に手術を受けていただくためには、普段飲んでいる薬を正しく把握することがとても大切です。今回は、薬を中断する「休薬」について紹介します。

▽高血圧の薬（降圧薬）  
高血圧の治療薬にはさまざまな種類があり、カルシウム拮抗薬やアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（ARB）、アンジオテンシン変

換酵素（ACE）阻害薬、利尿薬などがあります。多くの場合、これらの薬は手術当日も含めて内服を続けますが、ARBやACE阻害薬は、術中に血圧が下がりすぎるリスクがあるため、当日の朝は服用を中止するのが一般的です。

▽糖尿病の薬（血糖降下薬）  
糖尿病の治療には、内服薬とインスリン注射があります。内服薬はインスリンの分泌を促したり、効きをよくしたり、糖の吸収・排出を調整するものなどがありますが、手術当日はすべての内服薬を中止する必要があります。中には、手術の数日前から服用をやめるべき薬もあります。やめた後の血糖管理は、インスリンで行います。

▽抗血小板薬・抗凝固薬  
いわゆる「血液をサラサラにする薬」は、心筋梗塞や脳梗塞などの予防や再発防止のために使われています。しかし、手術では血を止める働きも必要のため、

換酵素（ACE）阻害薬、利尿薬などがあります。多くの場合、これらの薬は手術当日も含めて内服を続けますが、ARBやACE阻害薬は、術中に血圧が下がりすぎるリスクがあるため、当日の朝は服用を中止するのが一般的です。

## 安全のため正確な情報伝えて

手術時に休薬が必要な薬の例 ※休薬期間は目安で、症状や手術により異なる

種類	一般名	理由	期間
降圧薬	ARB、ACE阻害薬	低血圧リスクの増大	当日
血糖降下薬	ビグアナイド系薬剤 (メトホルミン、ブホルミン)	血液中のpHが酸性となり過呼吸など引き起こす恐れ	2日前
	SGLT-2阻害薬 (エンパグリフロジンなど)		3日前
抗血小板薬	アスピリン	出血リスク増大の可能性	7日前
	クロピドグレル		2週間前
	シロスタゾール		3日前
抗凝固薬	ワーファリン	出血リスク増大の可能性	5日前
経口避妊薬	低用量ピル	血栓リスク増大の可能性	4週間前
サプリメント	ドコサヘキサエン酸(DHA)	出血リスク増大の可能性	7日前
	エイコサペンタエン酸(EPA)		7日前

手術内容や持病のリスクを考慮して判断します。また「硬膜外麻酔」や「脊髄も膜下麻酔」など背中からの麻酔（区域麻酔）は、これらの薬を一定期間休薬してしないと実施できません。血液検査の結果や全身の状態を踏まえて、麻酔方法を慎重に決めていきます。

### ▽経口避妊薬

経口避妊薬は、安全で高い避妊効果があるだけでなく、月経困難症や月経不順の改善などの目的でも使われています。ただし、手術後に血栓（血のかたまり）が足にできるリスクが高まることから分かっています。この血栓が肺に飛ぶと、「肺血栓塞栓症」という重い病気を引き起こすことがあります。そのため、手術4週間前から休薬する必要があります。

### ▽サプリメント

サプリメントの一部分分は、手術中の出血や血糖、血圧の変動に影響を与えることがあります。医師が処方した薬でなくても、普段飲んでいるサプリメントもすべて、病院スタッフにお伝えください。

手術・麻酔に影響する薬は非常に多く、その中で続けるかどうかの判断が重要になります。特に経口避妊薬やサプリメントは申告が漏れやすいため、必ず医療スタッフに伝えるようにしてください。

当院をはじめ多くの病院では、術前の外来や入院時に薬剤師が確認し、薬の影響で手術が延期にならないように注意を払っています。病院を受診される際には、お薬手帳や現在服用中の薬のリストを必ずご持参ください。

薬の管理は、外科・麻酔科・内科の医師が連携して行いますので、ご安心ください。普段の薬の情報を正確に伝えていただくことが、安全に手術を受けていただく第一歩です。